

ヨハネの福音書 第4章 14節

「わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

人影を避け、井戸から水を汲み上げ、運ぶ日課の女性に語ります。生活に欠かせないいのちの水を毎日運ぶ者が聞くことばは驚きです。自分と家族のいのちを守るために一日も欠くことが出来ない水です。肩に食い込む水桶の重さを日々体験している者には驚きのことばです。

わたしが与える水です。汲み出しに行かなくても、運ばなくてもよいのです。与えられます。これだけで肩の荷があります。与える水を飲む者はだれでも、とあります。飲むことに招きます。運ばなくてもよくて、さらに飲むだけです。なんというもてなしでしょう。

この水の特別さがあります。飲んだら決して渴くことがないのです。一度飲んだら渴かないことなど考えられないことです。毎日渴き、水汲み、運ぶ生活でした。これまで飲んだ経験のない水を飲みなさいと招かれます。

わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。わたしを信じ飲みなさい。